つつきの

平成 21 年 10 月 1 日発行
創刊号
京田辺市観光ボランティア
ガイド協会広報部編集

橋本英吾代表

広報「つつきの」創刊にあたって

京田辺市観光ボランティアガイド協会
代表　橋本英吾

京田辺市は京都と奈良の中間にあって、その歴史も古く、第２６代継体天皇の宮(筒城宮)があったところでもあります。2011 年には遷宮 1500 年を迎えようとしております。このような歴史と文化の町、京田辺市を地元の方々や他地方の人々にもっと知っていただくため、平成 19 年京田辺市観光ボランティアガイド協会を立ち上げました。そして今回、京田辺市内のあまり知られていない名所旧跡、神社仏閣を調査紹介し、合わせてガイド仲間の知識の向上を図る目的で広報誌「つつきの」を発行することになりました。ご一読いただき、本誌に対するご意見、ご指導等頂ければ幸いです。発刊にあたりご尽力いただいた各位に感謝いたします。

シリーズ　京田辺の神社仏閣めぐり

光明山　阿弥陀寺　　飯岡

梅雨空の下、飯岡の阿弥陀寺を訪ねた。公民館に車を止めさせてもらい北へ向かう。車１台がやっと通れる細い道に入り右に折れると、突き当たりに山門が見え、山門を通して、木津川や対岸の景色が広がる絶好のロケーション、思わず景色に見とれてしまう。

木津川を借景とした額縁門(薬医門)

浄土宗知恩院派の光明山阿弥陀寺である。本堂横には、樹齢 300 年を思わせるイチョウの大木が寺の歴史を物語る。住職ご夫妻のお迎えを受け、読経のあと、寺の歴史を聞く。

開山上人の位牌から出てきたという、「祠堂什物並雑記」によると、文禄２年（1593）に清譽上人によって開創されたと伝えられる。その後の寺の歴史は、詳しくは解らないということであった。

祠堂什物並雑記

江戸時代は、淀藩(稲葉氏)の領地であったらしく、木津川西筋の圓光大師 25 ケ所霊場の 14 札所として、霊場めぐりの集印もされていた記録が残っている。

本堂　　平成 17 年再建

又、阿弥陀寺は当地の地主であった河瀬家の菩提寺として建立され、河瀬家寄進の仏像や什物が多く残されている。

今の建物は、平成 17 年に再建されたものである。檀家約 40 軒の協力で新築された本堂も、向拝の几帳面取りの柱、三軒(みのき)の庇、本堂内部に突出た斗供(ときょう)などに細工の行き届いた寺院建築の粋を見ることが出来る。

本尊の阿弥陀三尊像並びに脇檀に安置されている善導大師、法然上人は再建されたときに復元され、往時の輝きを戻されている。

彩色を施し、生まれ変わった仏像のなかに、蓮華寺からの客仏といわれる十一面観音像だけが黒い光を放っていたのが印象的であった。

境内の隅にある、檀家有志の地蔵講が管理する地蔵堂には、修復された弘法大師像(蓮華寺より請来)そして、地蔵菩薩像(通称落馬地蔵：口伝によれば、往古東向きにお堂が建てられてあった時、お堂の東の街道を通る武士がこの地蔵を拝まずに通った時に落馬したと伝えている)が並んで安置され、その南には、宝篋印塔(ほうきょういんとう)、歯痛地蔵などが並んでいる。

又、木津川を見渡す眼下には飯岡の七つ井戸の 1 つが竹藪の中にうずもれているといわれている。

歯痛地蔵(左)

住職ご夫妻の説明やもてなし、対岸の景色に名残を惜しみながら寺を後にする。

姿が見えなくなるまで、手を振って送ってくださったご住職ご夫妻に合掌。

和光山　正福寺　　江津

宮津にある和光山正福寺を訪ねる。

府道八幡木津線の江津の信号を西へ入り、急な坂道を登って左の山門に入る。本堂前の広場は、滑り台や砂場のある児童公園となっている。境内のサクラが咲き揃うと見事だろうなとイメージしてみる。樹齢 200 年を越えるであろうカイズカイブキの大木、風にそよぐ竹林を通して広がる南山城のパノラマ風景は、まさに別天地である。若草山の山焼きもここから見えるという。

正福寺　　薬医門

住職ご夫妻の出迎えを受け、本堂にあがり、住職の読経の後、お話を伺う。

西山禅林寺派のお寺は、京田辺市内に 4 か寺あるという。この寺の歴史も、江戸中期頃からしか解らないといわれ、寛永年間(1789~1800)法印寛龍上人によって再興されたという。

昭和 42 年(1967)秀空英道上人によって中興、今の本堂はその時のものである。

正福寺本堂と扁額

正面の阿弥陀三尊像は、江戸時代前半とされ、内陣奥の脇檀には、善導大師、法然上人が祀られている。

本尊　阿弥陀如来像

外陣には、地蔵菩薩像、室町時代の十一面観音像が穏やかな表情をみせる。

また、奥の部屋には、恵日寺からの客仏、珍しい女人神像が厨司に納まる。

本像背後の大きな画幅は、撫で仏として地域の方々の信仰を集めてきたという。

十一面観音立像

阿弥陀如来坐像

地蔵菩薩立象

上品下生印

青山華岳謹拝畫　　撫で仏

本堂横の不動堂には、廃仏毀釈のときに恵日寺から分けられたといわれる五大明王像の内の３体、不動明王像、大威徳明王像、軍荼利明王像が納まる。とりわけ、水牛に乗った大威徳明王像は名品であった。修理もされずにじっと我慢している姿をみると、涙を誘う。八臂であるはずの軍荼利明王は、二臂を残して、無残な姿のまま、それでも外敵に対して身構える姿は、痛々しいとしかいいようがない。

寿宝寺にわけられた明王像は、千手観音像と共に健在の姿を見せるのに、一体、この違いは何だろうと思う。

←大威徳明王像

不動明王像

←軍荼利明王像

「３億円当たったら不動堂を建てて、みんな一緒に祀りたい」と、冗談とも真面目ともつかない言葉がとびかう。

親切に案内してくださったご住職ご夫妻にお礼を言って、寺を後にする。

帰途、竹やぶの中の三山木廃寺跡を通り、佐牙神社の横を通って帰途につく。

読者の方に

「京田辺町の寺院仏閣めぐり」「ガイド豆知識」はシリーズで掲載しますので創刊号から綴じておいてください

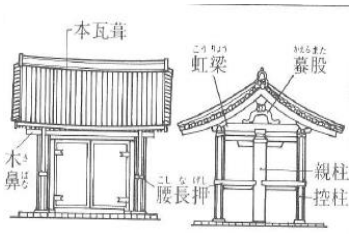
シリーズ　ガイド豆知識

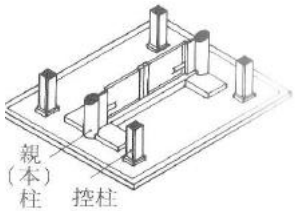
「門の知識」その１

神社仏閣を訪ねて、最初に目に入るのが「門」です。今回第一回目の勉強は「門」から入ります。
門の呼称は種々の呼び方があります。

① 門が設置された位置による名称
　表門、正門、通用門、総門、東門、南大門など
② 都城に設置された名称
　日華門、建礼門、応天門、羅城門、朱雀門など
③ 建築面からみた名称
　棟門、薬医門、桜門、二重門、四脚門、八脚門、唐門、鐘楼門、龍宮門、高麗門、長屋門、冠木門、櫓門・渡櫓門、上土門、塀重門など
④ 用途からつけられた名称
　仁王門、随身門、三門、山門、等々あります。

今回は③の建築面からみた門について勉強します。





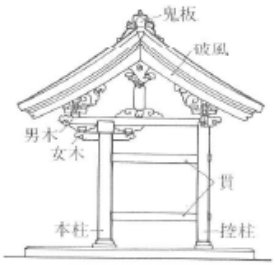
(1) 棟門

２本の柱の上に切妻屋根を乗せた門。柱は棟の中心に２本だけ。

建仁寺塔頭大源院

(2)薬医門

本柱が門の中心線(大棟)から前方にずれている。

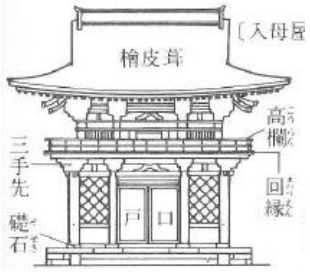


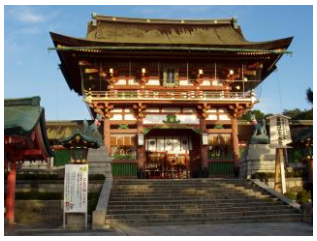
京田辺市　寿命寺　薬医門

本柱と控柱を結ぶ梁の中間に束を置き切妻屋根を乗せた門。寺院に比較的多く、桃山時代に始まり、元来は城門の一種で医薬を扱った居住に多い。
また、戦の際、一番に矢を射られることから「矢喰門」とも言われる。

(3) 楼門

二階建ての門だが、下層部には屋根が無く、上・下層の間には高欄付きの回縁があり、一重屋根の門である。神社に比較的多い。





伏見稲荷大社　楼門

今後の活動予定

＊継体天皇還宮 1500 年イベントに向けての検討会。
＊ＪＲふれあいハイク冬号の検討。
＊澤井家バスツアー定点ガイド。
＊来年度新会員(3 期生)の講習会準備。
＊お寺拝見。

編集後記　　会員の親睦と知識の向上を兼ねて会報を発刊します。右往左往しながら楽しく進めていきます。皆様のご協力をお願いします。

連絡先　京田辺市観光案内所　0774-68-2810